

JARL

香川クラブ報

No. 336 平成16年8月15日



J A 5 Y D E

大盛況だったフィールドミーティング

今年の梅雨はほとんど雨が降らなかったと思ったら台風が5個も日本に接近し、そのうち4個が日本に上陸し各地で被害をもたらしました。関東以西では猛烈な暑さ。甲府市では観測史上2番目の高温を記録。方や東北・北陸地方では記録的な集中豪雨で大被害が発生しました。時々発生する雷雲は雷被害をもたらし、私もパソコンや無線機に被害がありました。皆さん雷には十分気をつけましょう。

そんな、7月24・25日にJARL香川クラブ恒例の「夏のフィールドミーティング」が開催されました。天候に恵まれ参加者も16名を数え、賑やかな「焼肉パーティーと移動運用」になりました。

当日、15時過ぎから参加者が集まり出し、買出しに行く者、会場の設営をする者に分かれ、自分たちの持ち場で手早く準備。買い物に行った連中の帰りを今や遅しと待ちます。

いよいよ参加者も揃ったところで、天野会



長の音頭

で「乾杯」。後はもう焼肉をつつきながらビール片手にあちらこちらで話に花が咲き楽しい時間はあっという間に過ぎて行きます。

日もとつぷりと暮れ、飲み飽きた者は、本来の目的の一つである移動運用にと無線機の前に座ります。そこで、クラブでは一番のニューフェースJJ5CYN吉田さんにQSOの手ほどきをと、OM諸氏がワイワイガヤガヤ。CQを出させたりCQに応答させたりと、皆アルコールが入っ



ているのと、「船頭多くして船陸に上がる」の例えよろしく、全て中途半端に終わったみたいでした。それでも、交信には至らなかったものの「7エリアからコールバックがあった」と当人は喜んでいました。QSOできればよかったのですが、HFでの初交信は今回の楽しみとなりました。

三々五々、車の中で就寝する者、シャックで寝転ぶ者、自然解散的に第一ラウンドは盛況のうちに終了しました。

目を覚ますと、ほとんどの者が帰宅し残ったのは数名。前日の運用局数が2局では物足りないから解散までの短時間でもQSOしようと、無線機の前で運用を開始。

3.5, 7, 50MHzのCW, SSBで8J4ARDFを含め13局とQSOしました。

9時に後片付けをすべて済ませ会場を後にしました。

来年は、ぜひ早めに準備をして山か海に出かけて移動運用をしたいものです。皆さんご協力をよろしくお願いします。また今回参加できなかった各局もぜひ来年は一緒にしましょう。

＜参加者＞ JA5AHM/JA5UY/JH5EZB/J5LYW/JH5PMZ/JH5WMN/JE5PBO/JF5MED/JG5OBX
JI5XTP/JJ5CYN (ゲスト) JA5NRC/JA5UAA/JA5UVT/JG5WWD/JJ5CAE



北四国ARDF競技大会の案内

JARL 香川県支部・愛媛県支部合同で開催される「北四国ARDF競技大会」が下記のとおり開催されます。今年は香川県で実施されることになっております。県内での大会ですので、ARDFに参加したことがない方もぜひチャレンジしてみましょう。

日頃の運動不足の解消と方位探査技術の研鑽、捕らえどころのない電波とのかくれんぼ、地図・磁石の使い方の勉強などこの競技はいろいろな技術の向上に役立ちます。ぜひ奮って参加しましょう。



記

日 時：9月12日（日）雨天決行 09：00～09：30 受付

場 所：香川県さぬき市（参加者には追って集合場所が通知されます）

参 加 費：1,500 円（弁当が必要な方は 600 円を追加）

申込方法：8月28日までに氏名、フリガナ、コールサイン(ある人のみ)、生年月日、参加クラス、郵便番号、住所、電話番号、弁当の要・不要を記載した任意の申込書に参加費および必要な方は弁当代（定額小為替）と返信用封筒(80 円切手添付)を添え郵送で下記まで。

申 込 先：〒769-

様方

JARL 香川県支部 北四国 ARDF 大会係

- そ の 他**：1.競技方法・競技部門は JARL 制定の ARDF 競技実施方法に準ずる。
2.競技用周波数は 145MHZ で電波形式は F2 とする。
3.アマチュア無線の資格がなくても JARL 会員でなくても参加は自由です。

なお、ARDF 競技大会の審判員も公募しています。

審判員希望者はハガキに郵便番号、住所、氏名、年齢、コールサイン、電話番号及び審判員資格者証番号を記入して 8 月 28 日までに上記に申し込んでください。

ARDFに参加してきました

<ARDF長野県大会の成績>

6月13日

長野県

クラス	大会順位	コールサイン	所要時間	探索個数	競技も旅行も F B
YL	第7位	J J 5 CYN	2時間 04 分 31 秒	1 個	でした。また参加 したいですね
OM	第1位	J F 5 MED	1時間 49 分 26 秒	5 個	

全日本ARDF競技大会

10月24日に岡山県蒜山高原で開催

申込みは8月1日から9月4日

詳細は J A R L N E W S 7-8 月合併号 55 ページを参照

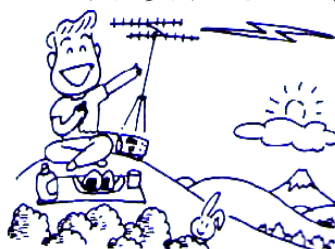
コンテスト参加報告

下記のとおり「JA5YDE/5」でコンテストに参加しました。

6m&Downコンテスト(7/3~4)

50MHz	CW	35局
144MHz	CW	24局
合 計		59局

OP. JH5LYW



オールJA5コンテスト(7/17~18)

1.9MHz	CW	6局
3.5MHz	CW	41局
7MHz	CW	136局
14MHz	CW	44局
21MHz	CW	21局
28MHz	CW	11局
50MHz	CW	3局
	SSB	6局
144MHz	CW	1局
	FM	2局
430MHz	FM	3局
1200MHz	FM	1局
合 計		275局

OP. JH5LYW

JARL主催コンテスト

JARL主催コンテストその他クラブ
対抗部門があるコンテストに参加した
時には、サマリーシートの登録クラブ
対抗欄に

登録クラブ 番 号	36-1-1
登録クラブ 名 称	JARL香川クラブ

と記入するようにお願いします。

個人のアクティビティー向上とクラ
ブの活性化のため、どしどしコンテス
トに参加しましょう。

フィールドデーコンテスト(8/7~8)

3.5MHz	CW	24局
7MHz	CW	62局
14MHz	CW	21局
21MHz	CW	4局
28MHz	CW	4局
50MHz	CW	20局
144MHz	CW	13局
430MHz	CW	5局
合 計		153局

OP. JH5LYW

JA5YDEの運用者を 募集しています

コンテスト、JCC/JCGの移動運用、クラブ
結成50周年記念アワードのサービス運用な
どで、JA5YDEをPRして行きたいと思
います。クラブ員なら誰でも運用でき
ます。運用希望者は局免許状・ログ帳・
Rigなどが必要ですのでJH5LYWにお
問い合わせ下さい。

(お詫び)

前回クラブ報第335号2ページの「クラブミーティングの報告」で参加者のうちJG5RST 細川
OMが抜けていました。慎んでお詫び申し上げます

晩秋の梶ヶ森

J F 5 EHD

季節は晩秋から初冬へと移り変わろうとしているこの時期、山々も紅葉から冬支度へその姿を変えようとしています。そんな中、私は高知県大豊町梶ヶ森に登ってみました。標高は 1399.6m あります。この山は、頂上まで林道が整備されており車で簡単に行けます。またキャンプ場や山荘もあり、高知県の方々には親しみ深い山のようにです。今回、私は JR 豊永駅から歩いて頂上まで目指すことにしました。

日曜日の午前 6 時 53 分、高松駅から私を乗せた下り普通列車が発車します。乗客は少なくガタンゴトンと、レールのつなぎ目通過の音だけが響いています。宇多津で特急列車に乗り換え、大歩危では乗客が二人だけの普通列車に乗り換えて、豊永駅に到着した時は 9 時 15 分でした。朝のホームに降り立ったのは私一人。ザックを担いでこれから梶ヶ森へと歩き始めます。

駅の横を流れる吉野川に架かる橋を渡ると、**梶ヶ森 →**の大きい標識があつて、それには、**梶ヶ森まで 15Km**とあります。「ウー、片道 15Km はきついなー」と思いつつ標識に沿って進んで行きます。国道を渡って民家の間の山道を進んで行きますと早くも登り坂が続きます。

「山は寒いだろう」と思い、防寒ジャケットの下にフリースやセーターと、いっぱい着込んできた私の体は早くも汗が噴き出しています。それらを脱いでザックの中へと押し込み、身軽になって登っていきます。

しばらく舗装された山道を登って行きますと小さなダムが姿を現してきました。つづら折りの山道をさらに登って行きますと小さな郵便ポストがあり山道も左右に別れています。

そこに**梶ヶ森**の標識があつて左側を指しています。

ここで休憩して水分補給とゼリーの栄養食を摂ります。

15 分ほど休んで出発。舗装された山道をただ黙々と登り続けます。時折、軽トラックが私の体に当たりそうになりながら通り過ぎていきます。しばらく登りますと右カーブする所に**梶ヶ森登山道**という標識に出会い、左斜め上部に登山道が続いているのが見えます。標識に沿って登って行きますと、民家の庭先に出てしまい「あれ？ここはどこ！私は誰！」状態です。そこで、よく周りを見てみますと、左端の方に細い道が続いており、そこを登って行きますと沢に出ました。小さな鉄性の橋を渡り、山道を登って行きますと林道に出ました。**梶ヶ森 →**の標識があつて、その標識に沿って進んでいきますと、[竜王の滝]の駐車場にたどり着き一休みです。駐車場の奥の方に[定福寺奥の院]へ通じる道があります。

今日は日曜日で天気も良く、滝見物の方々が来ておられました。しばらく滝の音を聞きながら沢伝いに登っていきます。そして、石段を登ると[定福寺奥の院]に出てきました。左側に平屋の家屋がありましたが「これがそうかなー？まさか。」ここから上を見



頂上から石鎚山方面を望む

ますと岩場、その一番上に何やら標識がかすかに見え、私はこれが梶ヶ森への近道と思い、その岩場を登り始めました。かなり急な岩場で、まるで蛙のような格好で、一歩づつ上へと岩場を登っていきます。



頂上から赤い屋根の山荘を望む

緊張感と恐怖感が入り交じって冷や汗が出てきます。そして、ようやく岩場の上へと登りますと標識は左向きと右向きの二つあって、どちらも「山荘梶ヶ森」とあります。「エエッ、いったいどっちなんだー？」どっちとも山荘に行けるようですが、何とも不親切な標識です。ここは、利き足の右側へ進むことにします（変な決め方！）。前方に赤いトタンの屋根が雑木林の合間から見えてきました。

山頂に近づくにつれ、展望が良くなって遠くの四国山脈の山々が見えてきます。風も冷たく、日陰になっている所の霜が凍っています。途中、雑木林の中に避難小屋がありその反対側には**土佐の名水、梶ヶ森の霊水**の標識があり、その向こうにはキャンプ場がありました。さらに林道を登っていきますと疲労困憊で、「ヒィヒィ」言っている私の横をスポーツカーがビューンと頂上目指して走り抜けていきます。「バカヤロー」と大声で叫んでみたものの、車は私の視界から消えておりむなしさが残ります。ようやく頂上展望台に到着です。標高 1399.6m まで登ってきました。天気も快晴で空気も澄んでおり、遠く石鎚山系、赤石山系三嶺、剣山系の山々が綺麗に見え、まさに 360 度の展望です。この展望を楽しんでいますと、先ほどのスポーツカーのカップルが、「すみませーん、シャッターを押してくれませんかー」とおっしゃるではありませんか。私は、目尻をピクピクさせながら「はい、では押しますよー」と、シャッターを押すのでした。



梶ヶ森頂上の石標

このカップルが去った後、頂上には静寂が戻り、改めてこの雄大な山々の展望を楽しみます。梶ヶ森頂上には、岩をセメントみたいなもので固めた石標、三角点、四国山地の山々のイラスト入りの円形看板などがあります。頂上に吹く風は冷たく体が冷えてきます。ふと、時計を見ますと午後 2 時 20 分、今から下山となると途中で暗くなりとても危険です。今日は、あの山荘で一泊と決めて頂上を後にします。

その山荘ですが、予約をしていませんのでちょっと心配です。とにかく中に入って管理人さんに聞いてみますと、あっさりと「はい、いいですよー。お一人ですかー。部屋

を準備しますから、ロビーでお待ちくださいーい」との返事です。

重いザックを肩から降ろして椅子にドッカと腰を降ろします。少し落ち着いて、ロビー周辺を見ますとガラスケースに入ったニホンカモシカの剥製が展示していました。

説明を読みますと、平成元年 12 月に大豊町で捕獲されたとあります。たしか、ニホンカモシカは天然記念動物のような気がします。捕獲してもいいのでしょうか、よく解りません。しばらくすると「部屋の準備ができましたー」との声で、ゆりの部屋へ通されました。さっそく疲れた体を風呂で癒します。そこへ、一人入ってこられ、どちらともなく山の会話が始まります。その方は、さぬき市から来られ、高松の「山の店ベースキャンプ」の常連さんということでした。「また、どこかの山で会いましょう」と言って別れました。風呂上がりにビールをひっかけ、夕食の後は爆睡です。

一夜明けての 24 日、昨日とは一転して山頂には灰色の雲が覆っています。小雨も時折パラパラ。「あー、カッパを着ての下山になるかなー」と、ちょっと心配です。朝食後の 8 時 30 分、山荘のお兄さんに「来年の春もまた来ますー」と、いいかげんな言葉をかけて下山開始です。ちょうど雨もやんで薄日がさしています。下山は、キャンプ場の中を通り、小高い丘を登りますと「天狗の鼻」の標識が見え、その分岐点から右に曲



頂上から剣山方面を望む

がり、[シャクナゲの森] へと下っていきます。その分岐点から観音様の座像が見え思わず合掌。この[シャクナゲの森] への下りの道は木階段の急勾配です。濡れた落ち葉で足元が滑りやすく危険で、ゆっくりと下りていきます。また、昨日の登りで酷使した膝への負担を少なくしたいものです。こういう時はストックが役に立ちますが、私のストックは先端部分が折れて少し短くなっています。無いよりかはましという感じでしょうか。しばらく下りていきますと「東屋」に出でてきました。そこからまた山肌を下りていきますと滝の横に出て、沢伝いに架けられた急勾配の鉄梯子を下りていきます。さらに、沢に架かる鉄橋を渡って、ようやく「定福寺奥の院」の所に出てきました。ここで休憩、一息いれます。山荘で戴いた「梶ケ森の霊水」は本当においしいー。

しばらく休んだ後、奥の院から「竜王の滝」を通して、ようやく駐車場まで下りてきました。ここから林道をフラフラと下りますと「**豊永駅への近道**」という標識がありそこから細い山道を下っていきます。しばらく林の中を下り、また林道に出て左方面（北）に歩くと、ようやく豊永の町並が樹林の合間から見えてきました。もう脚はパンパンに張っております。また足首の関節が、歩く度にポキンと音を発っています。「あれ、疲労骨折をしているのかいなー」と不安を抱きつつ、吉野川に架かる鉄橋を渡って豊永駅に着いて感嘆の声を上げてしまった私です。

時刻は 12 時 20 分を指していました。なんとか梶ケ森を征服した喜びで震える（その震えは疲れと寒さだー）私は上り列車に乗車し、数々の感動を胸に梶ケ森を後にしました。

土器さんには早くから原稿をもらっていたのですが、紙面の都合上たいへん遅くなって申し訳ありませんでした。

なお、これに懲りず皆さんどんどん原稿をお寄せください。お待ちしております。

★★★ 新入会員募集中 ★★★

JARL 香川クラブでは、新入会員を募集しています。

今年はクラブ結成５６年になります。

そこで、更なる飛躍と新たな歴史を築いていかなければなりません。
クラブに新風を吹き込むためにも、新入会員の募集にご協力ください。

JARL 香川クラブでは、会員サービスのために無線局免許状の期限切れについてお知らせをしていますが、免許状記載事項に変更があったり、新たに無線局免許状を取得した方は、その都度お知らせくださいますようお願いいたします。

特に、家族会員の方が十分に把握できていません。

せっかく取得したコールサインを流し、また再開局するのは不経済です。

将来のインターネットサービスに対応して、現在「電子メールアドレス」を取得している方は、差し支えなければ連絡下さい。

Eメール：JH5WMN

JH5LYW

**前年度までの会費が未納の方は早急に納入をお願いします。
また、平成１６年度会費につきましても早急に納入をお願いします。**

会報等印刷発送だけで会費の半分以上を使っています。会費が未納の方は納入してくれている会員の方に負担をかけています。ぜひよろしくをお願いします。

JARL 香川クラブ報

発行責任者	JA5AHM	天 野 英 弘
編 集 者	JH5LYW	三 好 伸 幸
	JH5WMN	山 口 博 司
	JE5PBO	岡 田 光